

▶ 理系女子を応援！オープンキャンパスで女子学生相談コーナーを設けました

理系分野への進学を考える女子高校生を対象に、繊維学部(10/11(土))と工学部(10/25(土))で開催されたオープンキャンパスにおいて、本学の現役女子学生による相談コーナーを実施しました。参加者は少人数ながら、先輩学生の相談に熱心に耳を傾ける姿が見られました。今後も、女子中高生の理系分野への関心を高め、進学に繋がるきっかけづくりを続けていきます。



▲繊維学部の相談コーナーの様子

▶ 時間を味方にする働き方へ——「タイムマネジメント研修」を開催

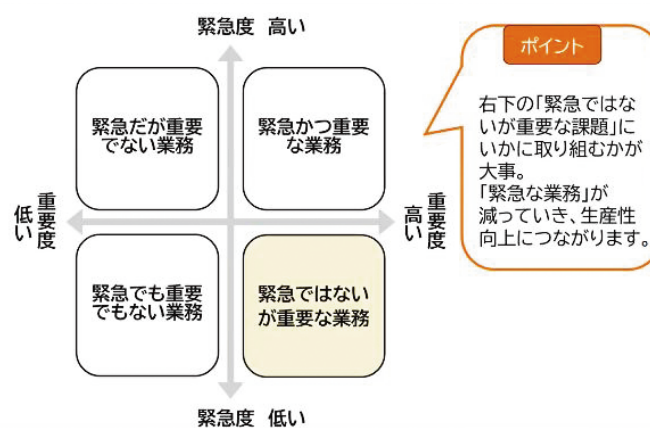
11月18日(火)に職員を対象にしたタイムマネジメント研修をオンラインで実施し、26名が受講しました。「限られた時間でより良い成果を生み出すために」をテーマに、日々の業務の進め方を振り返り、効率的に働くための考え方や具体的な方法を学びました。研修ではグループワークやチャットを効果的に使用し、実務に生かせる内容も多くあったため、大変好評でした。

受講者の感想

- タイムマネジメントを意識して行動することで、区切りによりメリハリがある仕事ができると再確認しました。優先順位をつけることなどの改革施策の例、効果的な施策といった工夫の案も大変有益な情報でした。さっそくひとつずつ実践します。
- 「集中タイム」について、これまで「電話や窓口対応をしないまとまった時間があればなあ」と漠然と感じていましたが、実際に取り組みがあることを知り、グループ内で提案したいと感じました。
- 業務の優先順位を緊急度と重要で考えて明確化するのは自分でもやってみたいと思いましたし、共有することが大切だと感じました。またグループワークで他の方の意見を聞けて参考になりました。

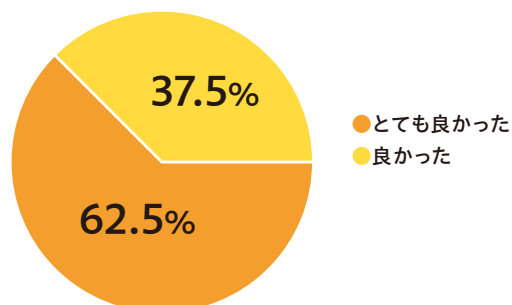
【参考】業務の優先順位を考える

～緊急度と重要度のマトリクス～



▲Zoomでの様子

【研修内容についてのアンケート結果】24件の回答



▶ 学部長インタビュー

人文学部 かな い 金井 ただし 直 学部長

〈人文学部の男女共同参画の現状と課題〉



関DE&I推進センター長(以下「関」):人文学部における男女共同参画の現状を教えてください。

金井学部長(以下「金井」):人文学部は6割が女子学生で、自然な形でゼミ活動などもリードしています。地域の市民活動やミュージアム、役所などで、つながりを作ることで才能を発揮し、大学という枠を超えて活躍しながら、松本を楽しんでいる女子学生も多いです。ある意味コンパクトな街だからこそ互いの声も届きやすいというところもあり、いわゆる「女子学生」、「大学生」、「男女」というくりではなく、個と個を大切にコミュニケーションを育んでいると感じます。

関:人文学部の女性教員の割合はいかがですか。

金井:女性教員割合としては2割です。人文学部に7つのコースがあって、そのうち6コースに女性教員がいます。まずは全コースに女性教員がいる状態になればと期待しています。

関:人文学部の課題はどのようなことがありますか。

金井:専任教員数の確保など、課題は多いですが、女性教員数が少ないということもその一つです。学生には自分の学びが様々な可能性に開かれていることを感じてもらいたいと思っていますので、女性教員がもっと増えるように考えています。現在、副学部長や学部長補佐が女性です。活躍されている女性の姿をさらに学生に伝えられればと思っています。

関:大学教員の可能性も含めたロールモデルが必要ですね。

教育学部 にし かず お 西 一夫 学部長

〈教育学部の男女共同参画の現状と課題〉



関DE&I推進センター長(以下「関」):教育学部における男女共同参画の現状を教えてください。

西学部長(以下「西」):女性教員の比率はまだ十分とは言えませんが、事務部門では男女のバランスが取れており、現在の事務長も女性です。性別のバランスが整うことで、多様な視点から相談やサポートができる環境が生まれると考えています。

教員の配置についても、特定の分野に偏ることなく、数学では女性教員が、家庭科の「住居」分野では建築出身の男性教員が活躍するなど、幅広い専門性を活かした体制を整えています。採用においては、能力が同等であれば女性を優先する方針も取り入れています。

関:課題はどのようなところにありますか。

西:教育学部では、依然として男性教員の割合が高い状況が続いていますが、研究分野にとらわれず、男女比を意識した教員配置を進めていきたいと考えています。理系の女性研究者や学生を増やす取組も行っていますが、若い研究者を登用できるような機会も考えるべきだと思っています。教える側も考え方が変わっていかないと、なかなかその次の世代は育っていきません。教員養成学部では女子学生が6割を占め、特に学生支援の面では一定数の女性教員の存在が不可欠です。現在、女性カウンセラーによる心理的なケアは整っていますが、日常的な相談の場では女性教員の割合がまだ十分ではありません。今後は、女子学生がより安心して学べるよう、領域を超えて気軽に相談できる体制づくりを進めてまいります。

〈学生と一緒に考えたいこと〉

関:大学の中だけではなく、意識の改革とか、そういうところが大切です。

金井:学生と一緒に考えたいのは、既存の価値観や習慣といったものにとらわれずに、多様性や差異を尊重するということです。そのためにも、多様性が一体どのように歴史的に、私たちの社会を、あるいは文化を開いてきて、現在があるのか、しっかり学ぶことが大切です。リベラルアーツ教育の重要性もそこに関わってくると思います。勉強のための勉強ではない、価値観の更新ですね。

〈ワークライフバランスについて〉

関:今後の取組やワークライフバランスについて伺います。

金井:ワークライフバランスの重要性を訴えています。私自身の介護経験からも、事情に応じて働ける職場環境のありがたさを実感しています。一方で教職員の仕事量は減りにくいため、業務の可視化・見直し・効率化・デジタル化が不可欠だと考えています。

関:先生ご自身のワークライフバランスについてはいかがですか。

金井:信州で働き学ぶことには、地域や人々との近さ、豊かな自然環境に支えられた大きな魅力があります。リフレッシュの機会が多いですね。学生にも、人との出会いに加えて、信州の自然を通じて地球や大地とのつながりを実感できることを伝えていきたいと考えています。

〈働きやすい環境づくり〉

関:今後取り組んでいこうと考えていらっしゃることはありますか。

西:教育学部では、できるだけ男女の隔てなく、皆さんが気持ちよく働ける環境づくりを大切にしています。若い教員が増えてきたことから、男女を問わず育児休暇を取りやすい環境づくりにも力を入れています。実際に昨年は、夏休みの期間を利用して男性教員が授業に支障なく育児休暇を取得した事例もありました。家庭を大切にしながら、安心して働き、そして教育にも力を注げる—そんな環境をこれからも整えていきたいです。

〈ワークライフバランスと若手支援への取組〉

関:教育学部では今後ワークライフバランスの推進についてどのような取組をなさっていきたいと考えますか。

西:教育学部では、誰もが安心して働ける環境づくりを大切にしています。家庭と職場の両立を支援し、勤務時間の調整や風通しの良い職場づくりを心掛けています。私自身も、大学で仕事を完結させるようにし、休日のメール送信を控えるなど、働き方の工夫を実践しています。また、学生の挑戦を支えることも重要です。ピアノで入賞経験のある学生が卒業記念に自らリサイタルを企画するなど、一人ひとりが努力を重ねています。私たちはその姿を支援し、若手研究者が自分の分野をさらに追究できる環境を整えていけたらと考えています。

学部長インタビューはこちらからご覧いただけます。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/dei/awareness/interview.php>

●前期授業「人生100年時代のDEI」が終了しました

受講者は69名でした。最終週に実施した授業アンケートでは、「幅広い分野にわたって、これからの人生に必要な知見を得ることができた」、「自分の心と向き合える非常に充実した学びが得られた」などの感想が見られました。

●令和7年度（10-3月期）研究補助者制度の利用者を厳正な審査のうえ決定しました

選考結果 利用決定者11名（女性6名、男性5名）

※研究補助者制度については、以下をご参照ください。
<https://www.shinshu-u.ac.jp/dei/initiatives/kenkyujo.php>

●令和7年度リスタートアップ研究費支援制度の利用者を厳正な審査のうえ決定しました

選考結果 利用決定者2名（女性1名、男性1名）

※リスタートアップ研究費支援制度については、以下をご参照ください。
<https://www.shinshu-u.ac.jp/dei/initiatives/restartup.php>

●「SOGI 対応教職員研修」を実施しました

11月12日（水）、小山法律事務所の齋藤信子弁護士を講師にお招きし「SOGI対応教職員研修」を対面とオンライン（Zoom）にて実施し、26名が受講しました。受講者からは「LGBTQといった基礎的な用語の理解も乏しかったため大変勉強になった。心ない言動が自分にないか確認しながら日々の業務について対応したい」といった感想も寄せられ、好評でした。



●ライフキャリア研修を開催しました

11月21日（金）、主任級から副課長級までの職員を対象に、Zoomにて研修を実施し、13名が受講しました。人生100年時代といわれる昨今、人生観の多様化について理解を深めるとともに、受講者が自身の価値軸を確認し、変化に対する“アクセル”や“ブレーキ”を認識することで、新たな一歩を踏み出すきっかけとなる研修になりました。

●退任の挨拶

令和2年12月よりコーディネーターを務めさせていただきました田中英子です。令和7年11月末をもちまして、5年間の任期満了に伴い、退任となります。微力ではありましたが、正副センター長および委員の皆様にお力添えをいただきながら、業務を遂行できましたことを心より感謝申し上げます。今後も信州大学における益々の女性・若手研究者の活躍とDE&I推進を祈念しております。



このコラムは、本学で“活き活き”働く教職員がリレー形式でお届けする“粋”なコラムです。

なま い ふう
生井 楓 助教 | 信州大学農学部
 農学生命科学科

家族構成 あなたのリラックス法は？
 妻・長男（2歳）・ 家族との会話
 長女（0歳）



▲水族館で魚を見つめる息子

🌸 周囲の理解に支えられたワークライフバランス

私は効率が良い方ではないので、研究（ワーク）と家庭生活（ライフ）の両立を完璧にこなすことは非常に困難です。研究にも家庭にも「効率が求められる部分」と「時間をかけること自体が重要な部分」があり、特に後者を考えると、両立はそもそも不可能だと思います。実際、私はどうにかやりくりしているにすぎず、片方に集中している人と比べれば結果が伴っていません。

それでも研究と家庭に居場所を持てているのは、周囲の支えのおかげです。第2子の誕生で学会に参加できなかったときには、教授が快く発表を代行してくださいました。研究室の懇親会などのイベントも、



▲産院で笑顔でミルクの授乳中

妻がその大切さを分かってくれており、いつも笑顔で送り出してくれます。

職場や行政にはワークライフバランスを支える制度がいくつもありますが、それを活かすにも周囲の理解と協力が欠かせません。結局のところ、支えてくれる人への感謝を忘れず、研究と家庭生活に真摯に誠実に向き合うことこそ、私にできる唯一の答えだと改めて感じています。



お問い合わせ

信州大学 DE&I推進センター (SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
 内線 811-2150, 811-2140
 TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
 mail sufre@shinshu-u.ac.jp

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。

信州大学 スフレ

検索

教育学部分室 〒380-8544
 長野市西長野 6-17-1
 内線 831-4018

工学部分室 〒380-8533
 長野市若里 4-17-1
 内線 821-5693

農学部部分室 〒399-4598
 上伊那郡南箕輪村 8304
 内線 851-3120

繊維学部部分室 〒386-8567
 上田市常田 3-15-1
 内線 841-5031

▶ <https://www.shinshu-u.ac.jp/dei/article/sufre/>